

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「開発創造・和衷敬愛・質実剛健」の建学の精神のもとに、「生徒の望む進路を実現する学校」をめざしていく。
 育てたい生徒像：(開発創造)自分で創意工夫でき、(和衷敬愛)おだやかで思いやりをもって人に接することができ、(質実剛健)自分を律し社会に貢献でき、
 (「開拓者精神」による実践)勇気を持って常に新しいことに取り組もうとする生徒を育てる。
 重点課題：自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力の育成

2 中期的目標

1. 生徒の学力を高め、進路を保障

(1)「学習における自律精神の育成」:

ア 規範意識を高め、挑戦する心の育成

※授業遅刻の減少、生徒指導の徹底、人権学習の推進、教育相談等のサポートの充実

イ 学習意欲の向上と継続した学習の推進

※授業態度の向上をはかり、力のつく授業の実践

※「総合的な学習の時間」の充実

※進路指導計画の充実

※授業アンケート「生徒取組1」(授業内容について必要な予習や復習ができている)の学校平均をH28は3.0に、H30は3.1にする。

(H27は2.87)

同じく「教材活用」(適度に課題や宿題を与える)の学校平均をH28は3.0に、H30は3.1にする(H27は2.95)

(2)「生徒参加型の国際交流」:

ア 異文化を理解し、コミュニケーションの機会を増加させる

※自己表現能力の向上のため発表等の機会増加

※授業におけるアクティブ・ラーニングやグループ学習の推進

※体験学習の充実(修学旅行、福祉体験、交流学习等)

イ 国際交流を通して、グローバルな視点から生き方を学び、積極的な人生をめざす

※在校生の国際交流：韓国・ニュージーランド・台湾・ドイツの高校への派遣及び、姉妹校の受け入れによる相互交流

※ニュージーランドへの長期留学制度の充実

※卒業生の国際交流：ニュージーランド・台湾の姉妹校に卒業生を日本語アシスタントとして派遣

※アシスタント教員の受け入れ：ニュージーランドから卒業生を語学のアシスタントとして受け入れる

※英語教育を積極的に推進し、また、第2外国語としての中国語・韓国語を推進する

※語学関連の資格試験の合格者数及び、スピーチ・コンテスト等への参加を促進する

※地域の国際関連施設と語学を通じた連携を図る

※学校教育自己診断(生徒)「国際交流を行う機会が多い」:H27は80%をH28年以降も80%以上を維持

(3)「授業・コース制度の充実」:

ア 進路に沿った学力の育成

※コースに基づいたクラス編成の実施

※進路を獲得できる力を養う授業の実施

※進路獲得に向けた講習会の積極的な実施

※コース特性に応じた進路獲得アプローチ:各コースの特性を活かす

※更なるコース・カリキュラムの充実

イ 丁寧な進路指導

※「総合的な学習の時間」等を活用し1年からのキャリア教育の実施

※進路ごとの相談体制の充実(特に国公立や難関私大受験のサポートを強化する)

※学校教育自己診断(生徒)「進路志望達成に必要な学力がつく」:H28は70%に、H30は75%にする(H27は62%)

同じく「進路について十分な相談ができる」:H28は80%に、H30は85%にする(H27は77%)

国公立の合格者数を増やす:H28は7名に、H30は10名に(H27は4名)

2. 生徒の活力を高め、充実した学校生活

(1)生徒会活動、部活動の活性化

ア 生徒会執行部の育成

※管理職との情報交換会、サポート体制の強化

※学校教育自己診断(生徒)における「生徒会活動が活発である」:H28は70%に、H30は80%にする(H27は62%)

イ 部活動の更なる充実

※学校教育自己診断(生徒)における「部活動は活発である」:H27は80%をH28以降も80%を維持

(2)体験活動の重視

生徒の達成感の向上をはかり、自尊感情・自律心・共生の精神を育む

※学校教育自己診断(生徒)「授業、部活動、学校行事で、他の学校や施設などと交流することがある」:H28は55%に、H30は60%にする

(H27は49%)

※学校行事の充実

学校教育自己診断(生徒)「文化祭が楽しい」「体育祭が楽しい」をH28は80%に、H29以降も80%を維持(H27は「文化祭」75%、「体育祭」78%)

3. 教員の指導力を高め、良き教育環境作り

(1) 教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成

ア 授業力の向上

※教材研究をしっかりと実施し、わかりやすい授業をめざす

学校教育自己診断（生徒）「わかりやすい授業が多い」：H28は50%に、H30は55%にする（H27は41%）

※校内及び校外での授業研修、授業先進校への視察

※授業アンケートの効果的な活用

授業アンケート「授業に関する生徒の意識8・9」（8：授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている。 9：授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。）の学校平均をH28は3.0に、H30は3.1にする。（H27は2.95）

※学力生活実態調査の結果を分析し授業に活かす

イ ICTを利用した授業、グループ学習、発表能力育成をめざす授業を心がける

※学校教育自己診断（生徒）で「コンピュータやプロジェクターを活用する授業」：H28は65%に、H30は70%にする（H27は59%）

※工夫した授業：授業アンケートで「授業が理解しやすいよう教材や教え方を工夫している」：H28は3.1に、H30は3.2にする（H27は3.05）

(2) 教職員が相互理解を深め信頼関係を構築

ア 生徒指導体制を充実

イ 学校教育相談、いじめ対策の組織を充実

ウ 教員のニーズに応じた研修の実施

※学校教育自己診断（教職員）「教職員間の相互理解と信頼関係で教育活動を実施」：H28は50%に、H30は60%にする（H27は40%）

4. 保護者・地域力を高め、連携の活性化

(1) 保護者・地域との連携を深める

※「国際交流支援」等の事業へ地域や保護者の参加を求める

※地域連携行事の企画と参加

※地域の小学校・中学校、及び近隣の大学校との連携を図る

(2) 学校情報の更なる発信

※学校のウェブサイトの充実

※メルマガの発行

※学校説明会の充実と内容改善

学校で実施する5回の学校説明会の参加者を増加する：H28は1500名に、H30は1600名にする（H27は1407名）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>I 次の5つの観点の主な項目について、昨年度との変化を踏まえ、生徒と保護者の肯定的回答に対する認識と今後の課題（*）を記します。</p> <p>■学校への満足度</p> <p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」80%→85%へ上昇 ・「阪南高校に入学してきてよかった」82%→85%へ上昇 ・「阪南高校には他の学校にない特色がある」78%→80%へ上昇 <p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもは学校が楽しいと言っている」85%→88%へ上昇 ・「阪南高校に入学させてよかった」90%→89%へ低下 ・「阪南高校には他の学校にない特色がある」76%→76%と不変 <p>*生徒の満足度が高まっていることは嬉しい限りです。保護者の満足度も昨年度とほぼ同様の評価をいただきました。今後は国際交流に関する情報提供を一層進めて本校の特色を理解いただけるよう努めます。</p> <p>■学習指導等</p> <p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業で教え方にいろいろ工夫する先生が多い」50%→51%へ上昇 ・「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」62%→60%へ低下 ・「授業中生徒の質問や疑問にわかりやすく対応してくれる先生が多い」66%→71%へ上昇 <p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもは授業などでいろいろ工夫している先生が多いと言っている」53%→46%へ低下 ・「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」56%→59%へ上昇 ・「授業中生徒の質問や疑問にわかりやすく対応している先生が多い」61%→61%と不変 <p>*生徒・保護者とも高まっている評価もありますが、数値が低いと認識しています。授業の獲得目標をはっきりさせ、頭を使い、表現するという授業方法の改善に努めます。</p>	<p>第1回（7/6）</p> <p>○H28 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに各取組みを進めていることは評価できる ・進路保障に力を入れてほしい。学びたいというモチベーションをどのようにして上げていくのか。卒業生に夢を語ってもらう機会を設けるなどすればどうか。 ・講師の話聞く以外に、生徒たちの「伝える能力」を向上させることも必要である。 <p>○新入生の出身市町村について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市、堺市、松原市で約95%を占めている。これらの地域に絞った広報が有効であろう。 <p>第2回（11/11）</p> <p>○学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上のために、授業公開月間を設けたこと、各教科で到達目標を議論し、その後、全体でも議論したことは評価できる。進路保障につなげてもらいたい。 ・成績データベースをつくり、模試と学校成績の関係を分析したことは評価できる。進路指導に役立ててもらいたい。 <p>○前期授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの年度変化と学力生活実態調査の年度変化が一致しない教科がある。授業改善が進めば、一層の学力向上が望まれると思う。授業力の向上をめざしてほしい。 <p>第3回（1/30）</p> <p>○後期授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値にすれば微小であるが、全般的に上昇していることは評価できる <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生への広報活動も必要だが、高校生は保護者へ学校での出来事を話さない。保護者との情報共有を進めるためには保護者への情報提供に工夫が必要である <p>○H28 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微小な%の低下もあるが目標に達していないので△の評価もやむを得ない <p>○H29 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上の取組みに力を入れることは評価する。期待したい ・取組み前に生徒には「基礎がなぜ大切なのか」を教えてほしい ・英検以外の資格検定にも挑戦させれば学習意欲が高まるのではない ・高校生はクラブ等で忙しく時間がない。時間の使い方や作り方を教えてほしい ・基礎学力向上のために新聞の論説等の文章を書き写すことをさせればどうか

■生徒指導等

〔生徒〕

- ・「学校生活についての先生の指導には納得できる」 65%→68%へ上昇
- ・「先生は協力して生徒の指導に当たっている」 71%→76%へ上昇
- ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 72%→76%へ上昇

〔保護者〕

- ・「学校の生徒指導の方針に共感できる」 79%→76%へ低下
 - ・「先生は協力して生徒の指導に当たっている」 84%→79%へ低下
 - ・「ホームルーム等で人権の大切さを学ぶ機会が多い」 70%→73%へ上昇
- *生徒の評価は上昇しています。今後とも「生徒の成長」のために教職員が一体となった指導に努めます。保護者の評価は低下しています。保護者との連携は生徒指導の土台であるので、保護者との対話をより丁寧に進め、ご理解いただけるよう努めます。

■進路指導等

〔生徒〕

- ・「将来の進路や生き方を考える機会がある」 80%→80%と不変
- ・「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」 64%→67%へ上昇

〔保護者〕

- ・「ホームルーム等で将来の進路や生き方を考える機会が多い」
73%→72%へ低下
 - ・「生徒の相談にのってくれたり、話を聞いてくれる先生が多い」
76%→74%へ低下
- *生徒の評価は概ね上昇していますが、「相談できる先生」の数値をもっと高めたいです。生徒から「相談してみよう」と一層思われるような言動を教職員が取れるように努めます。保護者の評価は低下しています。今年度作成した「進路マニュアル」に沿った指導を教職員が共通して取ることにより、保護者の理解をいただけるよう努めます。

■学習環境等

〔生徒〕

- ・「校舎、教室、特別教室、自習室、運動場等の施設や設備はよく整備されている」 47%→49%へ上昇
- ・「学校の施設や設備等が壊れたときは、すぐに修理したり、取り替えたりしてくれる」 49%→45%へ低下

〔保護者〕

- ・「教室、特別教室、自習室、運動場などの施設や設備はよく整備されている」 55%→52%へ低下
 - ・「学校の施設や設備がこわれたときは、すぐに修理したり、取り替えたりしてくれる」 55%→57%へ上昇
- *生徒・保護者とも上昇した評価があるものの、数値が低いです。できる修繕等はできるだけ早く、予算獲得の必要性のあるものは計画的に整備を進め、安全・安心な学習環境の整備に努めます。

II 教職員回答の主な項目について、昨年度との変化を踏まえ、肯定的回答に対する認識と今後の課題（*）を記します。

- ・「生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している」 57%→87%へ上昇
 - ・「本校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている」
57%→76%へ上昇
 - ・「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有効に機能している」
36%→49%へ上昇
- *教職員間の対話と連携が進みました。これからも「生徒の成長」に全教職員が一丸となって取り組めるよう風通しの良い職場づくりに努めます。
- ・「教科指導に必要な単位あたりの授業時間は十分に確保されている」
57%→29%へ低下
- *授業方法も含めた検討を続けます
- ・「生徒指導について、家庭や地域との連携ができています」
64%→46%へ低下
- *指導方法のきめ細かな検討を行いつつ、家庭や地域とのより丁寧な対話を続けます
- ・「学校案内のHPやリーフレット、学校訪問、説明会など広報活動を積極的に行っている」
81%→68%へ低下
- *HPによる情報発信を強化するとともに、広報活動が効果的・効率的となるよう改善を進めます。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 生徒の学力を高め進路を保障	1. (1)「学習における自律精神の育成」 (2)「生徒参加型の国際交流」 (3)「授業・コース制度の充実」	1. (1)生徒の健全な学校生活の確立、自主的な勉学姿勢、適切な宿題を継続的に指示など (2)各生徒のレベルに応じた交流の充実、新入生の保護者へ国際交流の受け入れをアピール、インターネットを通じたドイツとの交流の検討、卒業生の交流 (3)進路に応じた適切なコース編成、1年次・2年次のコース選択オリエンテーションの充実、学力生活実態調査の活用、成績結果分析データの蓄積	(1)授業アンケート「生徒取組1（予習・復習）」の学校平均を3.0以上に（H27は2.87）、また、同じく「教材活用（課題・宿題）」の平均を3.0以上に（H27は2.95） (2)国際交流でのPTA・卒業生・地域の方の参加機会とホームステイ引き受け家庭の増加（H27は、国際交流にPTAや地域の方々の参加が少なかったが、2月に地域のボランティアとして15所帯の方々がホストファミリー・リストに登録いただいたので、H28は多角な活動の実施可能）学校教育自己診断（生徒）で「国際交流を行う機会が多い」：H27は80%をH28も維持 (3)卒業生の進路保障、親切な受験指導の徹底 学校教育自己診断（生徒）「志望達成の学力がつく」をH27は62%をH28は70%に、また、「進路相談が十分できる」：H27は77%をH28は80%に	(1)・「生徒取組1（予習・復習）」は2.77へ0.1低下（△） ・「教材活用（課題・宿題）」は2.95と不変だが目標は未達（△） 来年度は授業見学会を充実させて授業改善に努める。 (2)・ホストファミリーを引き受けてくれた家庭数はH28：38へ増加（H27：30）（◎） ・学校教育自己診断（生徒）「国際交流を行う機会が多い」は82%と80%以上を維持（○） ホストファミリーの魅力発信等、更なる国際交流の内容充実を図る。 (3)・学校教育自己診断（生徒）「志望達成の学力がつく」は60%へ2%低下（△） ・「進路相談が十分できる」は78%へ上昇するも目標は未達（△） 今年度作成した「進路マニュアル」に沿った指導を全教職員が行い改善に努める。
2. 生徒の活力を高め充実した学校生活	2. (1)生徒会活動、部活動の活性化 (2)体験活動の重視	2. (1)生徒会との連絡会の実施、部活動加入の推進、 (2)体験活動の充実、教育相談の充実、学校行事の充実	(1)学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動が活発」：H27は62%を70%に、また、「部活動が活発である」H27は80%をH28も維持 (2)学校教育自己診断（生徒）「他の学校や幼稚園・保育園などと交流がある」：H27は49%をH28は55%に、また、「文化祭が楽しい」でH27は75%を80%に、そして、「体育祭が楽しい」でH27は78%を80%に	(1)・学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動が活発」は70%であり目標を達成（◎） ・「部活動が活発である」は79%へ1%低下（△） 連絡会等を活用して、生徒会主体の取組みが一層進むようさらに支援を続ける。 (2)・学校教育自己診断（生徒）「他の学校や幼稚園・保育園などと交流がある」は43%へ6%低下（△） 来年度は交流機会が増えるよう努める。 ・「文化祭が楽しい」は81%で目標を達成（◎） ・「体育祭が楽しい」は81%で目標を達成（◎） 連絡会等を活用して、生徒会主体の取組みが一層進むようさらに支援を続ける。

<p>3.</p> <p>教員の指導力を高め良き教育環境作り</p>	<p>3.</p> <p>(1) 教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成</p> <p>(2) 教職員が相互理解を深め信頼関係を構築</p>	<p>3.</p> <p>(1) 拡大学年会議の実施、生徒面談週間の継続、スクールカウンセラーの活用</p> <p>(2) 研修の充実、教員間の授業見学の実施、運営委員会の充実、ICTの活用</p> <p>(3) 授業にグループ学習を導入、教員のカウンセリングマインドを養成、授業への遅刻を徹底指導</p>	<p>(1) 学校教育自己診断（教職員）：「問題行動に組織的対応できる体制」：H27は57%をH28は65%に 「きめ細かい進路指導を実施」：H27は79%をH28は80%以上に</p> <p>(2) 学校教育自己診断（教職員）：「積極的な教科目標・指導内容の点検機会」：H27は64%をH28は70%に 「教職員間の相互理解と信頼関係で教育活動」：H27は40%をH28は50%に</p> <p>(3) 授業アンケート「授業に関する生徒の意識8・9」（8：授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている。9：授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。）の学校平均をH28は3.0に（H27は2.95）</p>	<p>(1) 学校教育自己診断（教職員）「問題行動に組織的対応できる体制」は50%～7%低下（△） 問題行動に対する指示系統と情報共有体制を明確にして改善に努める。 ・「きめ細かい進路指導を実施」は78%～1%低下（△） 今年度作成した「進路マニュアル」に沿った指導を全教職員が行い改善に努める。</p> <p>(2) 学校教育自己診断（教職員）「積極的な教科目標・指導内容の点検機会」は63%～1%低下（△） 教科会議の定期開催を行い改善を図る。 ・学校教育自己診断（教職員）「教職員間の相互理解と信頼関係で教育活動」は36%～4%低下（△） 日常的な対話習慣の醸成により改善を図る。</p> <p>(3) 授業アンケート「授業に関する生徒の意識8・9」（8：授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている。9：授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。）の学校平均は2.95と不変だが目標は未達（△） 教科会に加え授業見学会も定期開催するなど一層の授業改善に努める。</p>
<p>4.</p> <p>保護者・地域力を高め連携の活性化</p>	<p>4.</p> <p>(1) 保護者・地域との連携を深める</p> <p>(2) 学校情報の更なる発信</p>	<p>4.</p> <p>(1) 図書館の地域開放を考える、図書ボランティアの導入を推進する、地域連携の行事に参加する、また、地域と連携した防災・災害対策を更に具体化する</p> <p>(2) 学校のウェブサイトの充実、メルマガの発行、学校説明会の充実と内容の改善</p>	<p>(1)-1 保護者連携 保護者等を対象とした講座数と参加者数を昨年度より増やす（H27 韓国語講座に20名参加、H28は英語講座の開設を予定） 学校教育自己診断（保護者）で「PTA活動は活発である」をH27は74%をH28は80%に</p> <p>(1)-2 地域連携 地元の小中学校に派遣する（H28は、地元2中学校・1小学校・視覚支援学校・地域センターに派遣する予定）派遣日数は、合計40日を目標にする。また、イングリッシュ・キャンプを地元中学校生及び大阪市大生と合同で開催する</p> <p>(2) 学校や部活の活動報告を学校ホームページに逐一掲載、新デザインの学校案内を印刷し中学校・塾や学校説明会で配布、本校での学校説明会参加者を増加する（H27は1407名）</p>	<p>(1)-1 保護者連携 ・韓国語講座は実施できず（△） ・英語講座は開設できた。参加延べ人数130人（◎） 来年度は韓国語講座の再開を目標とする。 ・学校教育自己診断（保護者）「PTA活動は活発である」は74%と不変だが目標は未達（△） 生徒会とPTAとの対話機会を増やす等の改善に努める。</p> <p>(1)-2 地域連携 ・ニュージーランドの姉妹校から来たネイティブの派遣は1中学校・1小学校・1視覚支援学校で日数は18日であった（△） ・イングリッシュ・キャンプを地元中学校生、大学生（卒業生）、本校NET、他校NET、ニュージーランドの姉妹校から来たネイティブと合同で開催した（◎） ニュージーランドの姉妹校との良好な関係を維持してネイティブの派遣継続とネイティブからの協力を得ていく。</p> <p>(2) 学校や部活の活動報告を学校ホームページに逐一掲載できなかった（△） HPによる情報発信を強化するとともに、広報活動が効果的・効率的となるよう改善を進める。 ・新デザインの学校案内を印刷し中学校や学校説明会で配布（○） ・学校説明会参加者は1370名で減少した（△） 中学校訪問も含めて、学校説明会にさらに力を入れていく。</p>